

autoCULT

Alfa Romeo Tipo 512 (イタリア, 1940)

レンスポート

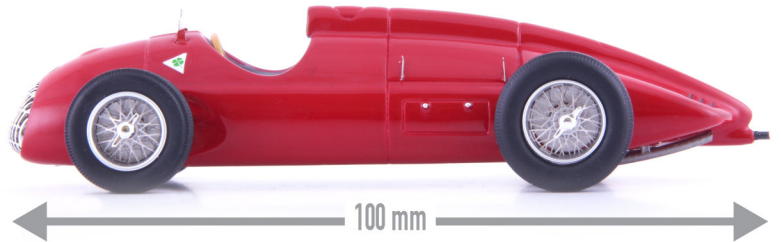
Scale 1/43

#07023

available

03/2022

Limited edition 333 Stk.



もしもの話

1930年代後半、ロードレース界はドイツのメルセデス・ベンツとオート・ユニオンの独壇場であった。他のメーカーは、競争力のあるクルマをレースに送り込むことができなかつたため、3リッターの最高級クラスに代わるスポーツカーを模索していた。そこで、1.5リッターという小排気量クラスが選ばれたのである。イタリアの伝統あるアルファロメオ社もこの結論に達し、1938年に最初のレースカー、タイプ158の製造を実現した。この間、3リッターの最高峰クラスは、将来的には1.5リッタークラスに取って代わられるべきだという考えに最終的に固まった。計画はすでにかなり進んでいたため、新クラスの導入はすぐに明白となり、アルファロメオは新しいレーシングカーを開発することになった。

この仕事を任されたのは、当時43歳のスペイン人エンジニア、ウィルフレド・リカートだった。アルファロメオの歴史上初めて、彼はエンジンの搭載位

置を車体中央部に設定した。さらに、非常に低い重心も重要な要素と考えた。この2つのスペックを両立させたのが、180度V型の極めてフラットな12気筒エンジンである。ルーツ式スーパーチャージャーで強力な性能向上を図り、1500ccの4ストロークエンジンは330ps以上/8600rpmの性能を持つに至った。開発当初は、おそらく1台だけの生産で、タイプ512の略称で呼ばれていた。その後、戦時中に2台目のレーシングカーが生産されたと言われているが、テスト走行が行われることはなかった。

512のプロトタイプは2台が今日まで残っている。1台は「アルファロメオ博物館」に、もう1台は「レオナルド・ダヴィンチ国立科学技術博物館」の展示物になっている。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de